



中国日本商会

今どきコラムー120

中国雑談

中国の機械製造業とドイツ

ドイツの主要メディアは最近、中国の機械製造業がドイツを追い抜いたことに注目している。

8月13日、ドイツの週刊誌『デア・シュピーゲル』が自社サイトに掲載した「ライバルのドイツを大きく引き離しつつある中国の機械製造業」と題する記事では、ドイツ貿易投資振興機関の研究によると、**機械装置製造の分野で、ドイツは中国との競争に大敗を喫した可能性があると**報じられた。

同研究によると、中国は今、ドイツに対するリードを大幅に広げつつある。報告の予測では、**今年の中国による機械装置の輸出額は約31%増の2960億ドルに達する見込みだが、かつて機械装置輸出で世界のトップだったドイツの輸出額はわずか13%増の2490億ドルに留まるという。**

報道によると、2020年に中国は初めてこの分野でドイツを上回った。ドイツ機械装置製造業連合会の計算では、中国の昨年の機械装置の輸出額は1650億ユーロ（約1950億ドル）で、同分野の商品の世界の総輸出量の15.8%を占めた。一方でドイツの輸出額は1620億ユーロで、世界の総輸出量に占める割合は15.5%だった。そして、2019年の頃はドイツのサプライヤーが中国のライバルを1.4ポイント上回っていた。

今回の研究報告では、「新型コロナウイルスの流行により、中国は2020年に初めて世界最大の機械装置輸出国になった」ことが指摘された。さらに報告によると、中国の工業界が厳格な封鎖措置が解除された後、速やかに稼働を再開したことが今回の勝因であり、「中国と



いうライバルは今、より多くの分野でドイツの輸出業者を追い抜いている」という。2020年に中国は機械装置製造における28分野のうち16分野でドイツをリードしているが、その中にはこれまでドイツの輸出量が多かった分野も含まれている。

ドイツの機械装置製造業連合会の最新の研究によると、中長期的に見て、形勢は明らかに中国が有利だという。その理由は中国の生産規模だけに留まらず、中央政府が全体的に中国国内の機械装置製造業の発展を促進しており、特に輸出に力を入れているからだ。例えば、2010年ドイツのサプライヤーはロシアで市場を牛耳り、市場シェアは約25%も占めていた。しかし、今では同シェアは15%前後に下落しているが、新たなトップランナーである中国の同シェアは20%を超えている。

日本企業（中国）研究院 執行院長

chenyan5931@163.com